



令和4年度

登米市社会福祉協議会

地域福祉フォーラム

日時：令和5年2月25日（土）
13:30～15:30

場所：登米祝祭劇場（水の里ホール）

一人ひとりの**力**を合わせ、みんなの**幸**せのために

～ 共に支え合い、誰もが安心して暮らせるまちづくり ～



令和4年度登米市社会福祉協議会「地域福祉フォーラム」開催要項

1.趣 旨

登米市社会福祉協議会は、登米市地域福祉活動計画に掲げた基本理念である「一人ひとりの力を合わせ、みんなの幸せのために」の実現のため、共に支え合い誰もが安心して暮らせるまちづくりを構築できるように努めています。

平成28年度からは、高齢者の生活支援や社会参加・生きがいを含めた地域づくりの体制整備として「生活支援体制整備事業」を登米市より事業委託を受けており、社会福祉協議会として地域福祉の土台作りを更に強化していくため事業推進しております。

本フォーラムでは、官民一体となった地域福祉の展開に向け、基調講演を拝聴し、身近な取り組みに入れられるようにしていきます。

また、本フォーラムを開催するにあたり、永年に亘り登米市内で社会福祉の発展に功績のあった方々等を表彰し、福祉ふれあい作品コンクールにおいて受賞された児童生徒の表彰式も合わせて開催いたします。

2.主 催 社会福祉法人登米市社会福祉協議会

3.共 催 登米市共同募金委員会

4.後 援 登米市 登米市教育委員会 登米市民生委員児童委員協議会
登米市老人クラブ連合会 登米市ボランティア協会
宮城県登米市遺族会 登米市障がい者福祉協会
登米市手をつなぐ育成会 登米市母子福祉会
公益社団法人とめ青年会議所 佐沼ライオンズクラブ
中田ライオンズクラブ 特定非営利活動法人とめタウンネット
大崎タイムス社 株式会社登米コミュニティエフエム
公益財団法人登米文化振興財団  河北新報社

5.開催日時 令和5年2月25日(土) 13:30~15:30

6.会 場 登米祝祭劇場 大ホール

7.内 容 第1部 式 典(社協会長表彰、福祉ふれあい作品コンクール表彰等)
第2部 作文朗読(福祉ふれあい作品作文の部最優秀作品)
第3部 記念講演(講師:長野県麻績村役場住民課主査 関崎 豊氏)

8.事務局 社会福祉法人 登米市社会福祉協議会 本部
登米市迫町北方字大洞45番地3
TEL:0220-21-6310 FAX:0220-21-6320

9.そ の 他 大会に要する経費は、登米市社会福祉協議会で負担する。
新型コロナウイルス感染症対策に係る市主催イベント・会議等の考え方により参加人数等調整を行い関係者への案内を行う。
今後の感染状況により、フォーラムの内容変更もしくは中止となる場合があります、それ相当の判断をした場合は直ちに関係者に通知する。

次 第

開 会

- 開会のことば 副会長 及 川 英 一
- 主催者あいさつ 会 長 千 葉 博 行

《式 典》（13：30～14：20）

- (1) 表彰状並びに感謝状の贈呈
福祉功労者表彰
「福祉ふれあい作品コンクール」入賞者表彰
- (2) 来賓祝辞 登米市長 熊 谷 盛 廣 様
登米市議会議長 關 孝 様
宮城県東部保健福祉事務所登米地域事務所長兼
石巻保健所登米支所長 菅 原 英 治 様
- (3) 来賓紹介
- (4) 受賞者謝辞

《福祉ふれあい作文朗読》（14：20～14：35）

- ①小学校下学年の部 最優秀賞
『 おじいちゃんとおぼく 』
登米市立東郷小学校 1年 熊 谷 晴 真 さん
- ②小学校上学年の部 最優秀賞
『 私のすてきなおばあちゃん 』
登米市立加賀野小学校 4年 佐々木 優 羽 さん
- ③中 学 校 の 部 最優秀賞
『 互いに心をつないで 』
登米市立米山中学校 3年 加 藤 のぞみ さん

【舞台転換・休憩】（14：35～14：45）

《記念講演》（14：45～15：25）

講師：長野県麻績村役場住民課主査 関 崎 豊 氏

- 閉会のことば 副会長 菅 原 晴 男

閉 会

令和4年度

登米市社会福祉協議会

「地域福祉フォーラム」

(講演資料)

「死ぬまで楽しい！」を目指して 長野県麻績村の取り組み



長野県 おみ 麻績村

住民課

関崎 豊



麻績村の概況

- ・面積 34.38km²
- ・人口 (R4.10) 2556人
- ・地域包括支援センター 直営 1ヶ所
- ・日常生活圏域 1圏域
- ・第8期基準額 6500円
- ・生活支援コーディネーター
第1層 1人

- ・地域特性など
県内の三大都市圏に囲まれる
中山間地域
稲作、傾斜地を利用した果樹栽培
(リンゴ) が盛んだったか後継者不足



本日皆さんにお伝えしたいこと

- 1、麻績村高齢者福祉の**共通目標**について
- 2、**住民の誰でもが参加できる合議体**
「**できることもちよりワークショップ**」について
- 3、生活支援体制整備事業についての考察



地域支援事業



介護保険



高齢者福祉

「高齢者福祉」って、

誰のために何をすることなのか?????
誰がどうなることが「目的」なんだろうか

☆麻績村で暮らせて本当に良かった☆

全ての高齢者に、そう思ってもらえる村にしたい！！

死ぬまで楽しい麻績村！！を
～住民の皆さんと一緒に考えていきたい～

⇒これをいろんな場面で言い続けている。



地域包括ケアは身近な参画

普通の人でも「福祉行政」に考える所から関わられるようになってきた。

「福祉行政」に関わるとは??

今の地域の支えあい、

自身の「老後」の支援体制に対する**「アイデアの投資」**

それができる場所が、「生活支援協議体」

ただし

色んな人が関わるようになると・・・

皆さんそれぞれに「腑に落ちる」共通目標（何のため）がないと

せっかくの議論が迷走しだす。

⇒ 船頭多くして船山を登る

なので

できるだけ多くの人々が「腑に落ちる」

かつ

明日(未来)の自分の生活を考える上でメリットになる

高齢者一人一人に

「ここで暮せて良かったと思ってもらうために」

「死ぬまで楽しい麻績村！」を打ち出して、いろんな場面で伝えている。

住民の誰でもが参加できる合議体 名称『できること持ち寄りワークショップ』

- ・話し合いの1つの手法(KJ法、ワールドカフェをMIX)
- ・誰でも参加可(委員を委嘱しない)
いわゆる事例検討会
- ・本人の困りごとに対して何ができるか、
その人の暮らしを支える視点で議論



やっていること

- ・事例に出てくるお年寄りの「困りごと」に対して

参加者個人個人「自分だったら何ができるのか！？」を考えていただきアイデアとして出していただく。それを共有する。

- ・アイデアは出し合うが

結論は出さない 後追いもしない

⇒『第2層生活支援協議体』に位置づけ

事例 膝痛で困るけれど“家で暮らし続けたい”というAさんの悩み

<Aさんの基本情報>

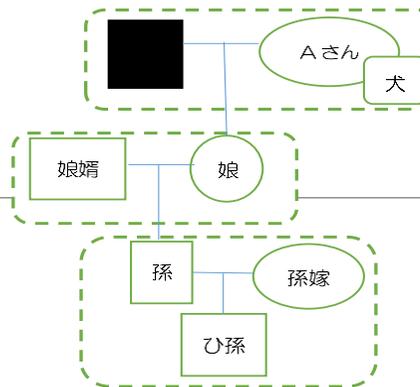
年齢：83歳 女性 一人暮らし。両膝変形性膝関節症。
要支援1（通所リハビリを利用）

家族：夫 15年前に他界

娘（60歳） 一人娘で県外に嫁ぐ。母のことを気にしているが、自分自身も孫の世話が
あり、2か月に1回程度の帰省と
なっている。

娘婿（62歳） 寒いところが嫌いで、あまりかかわ
らない。

孫（28歳） 本人の自慢の孫、力仕事をよく
お願いしていた。最近子どもが
でき、仕事に子育てに忙しい。



<相談概要>

2週間くらい前から、左膝が痛くて歩くのもままならなくなった。それまでは、歩いて買い物や犬の散歩もできた。運動していたので、体には自信があったのだが、今はトイレに行くのもやっと。買い物や犬の散歩ができない。今までは当たり前できていたのに……。

家族はそれぞれ忙しいのはわかっているので、何かを頼むにもかえって気がつかう。病院に行くと入院になってしまうかもしれないので躊躇している。愛犬の世話もどうしよう……。

自分も一人なので将来が心配だが、亡き夫と苦勞して作り上げた家なので、最後までできる限り自分で手入れも家事もしたい。できればここを離れたくはない。



<Aさんの関連情報>

性格や特性	<ul style="list-style-type: none"> ・気丈で我慢強い性格 ・飼っているミニチュアダックスフンドを相棒としてかわいがっている ・短歌やコーラス、野菜作りなど、多趣味である
周囲とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで地域の女性グループのリーダー的存在だった ・民生児童委員や地域包括支援センターは1~2か月に1度訪問している
弟妹・甥とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・弟と妹がそれぞれ県内の別の市で暮らしている。Aさんとは定期的に連絡をとっている ・甥は隣町にあるAさんの実家在住。「困ることは何でも言って」と、月に1回は顔を出してくれるが、100歳の母親の介護をしている



ワーク1 自分ができる支援を書き出します。

①事例に出てくる人物に対して、自分ができる支援や応援の内容を書きます。青色のふせんを使って、「～ができる」と書いてください。

(楽しい！を支援できる内容がたくさんあるとサイコーです！)

【例1】

時々、様子を見に行くことができる

鈴木

【例2】

一緒に歌を歌うことができる。

渡辺

【例3】

電球の取り換えくらいならできる

鈴木

<ポイント>

1) 支援者(専門分野)としてできることも書きますが、一人の市民として個人的にできることも書きます。

2) なるべく具体的に「できること」を書いてください。

<ルール>

- ◆ ひとつのふせんにはひとつのことしか書きません。
複数の出せる人は、ふせんを複数枚使ってください。
- ◆ 一番下に、自分のお名前を記入してください。
- ◆ 思いつくままに、自由な発想でお書きください！

このワークのねらいと参加のポイント①

1. 自由な発想でポジティブに

- 本日のワークは、今日ご参加の皆さまの「**できること**」をなるべくたくさん出し合います。
- ひとりではできないことを、地域のみinnで考えると、どんなことが起こるか！？その可能性を、限界まで知ることを目的にしています。
- ふせんに書いた支援や応援は、**今後の実施を約束するものではありません。重く考えすぎず、できる可能性のあるものをどんどん書いてください。**

このワークのねらいと参加のポイント②

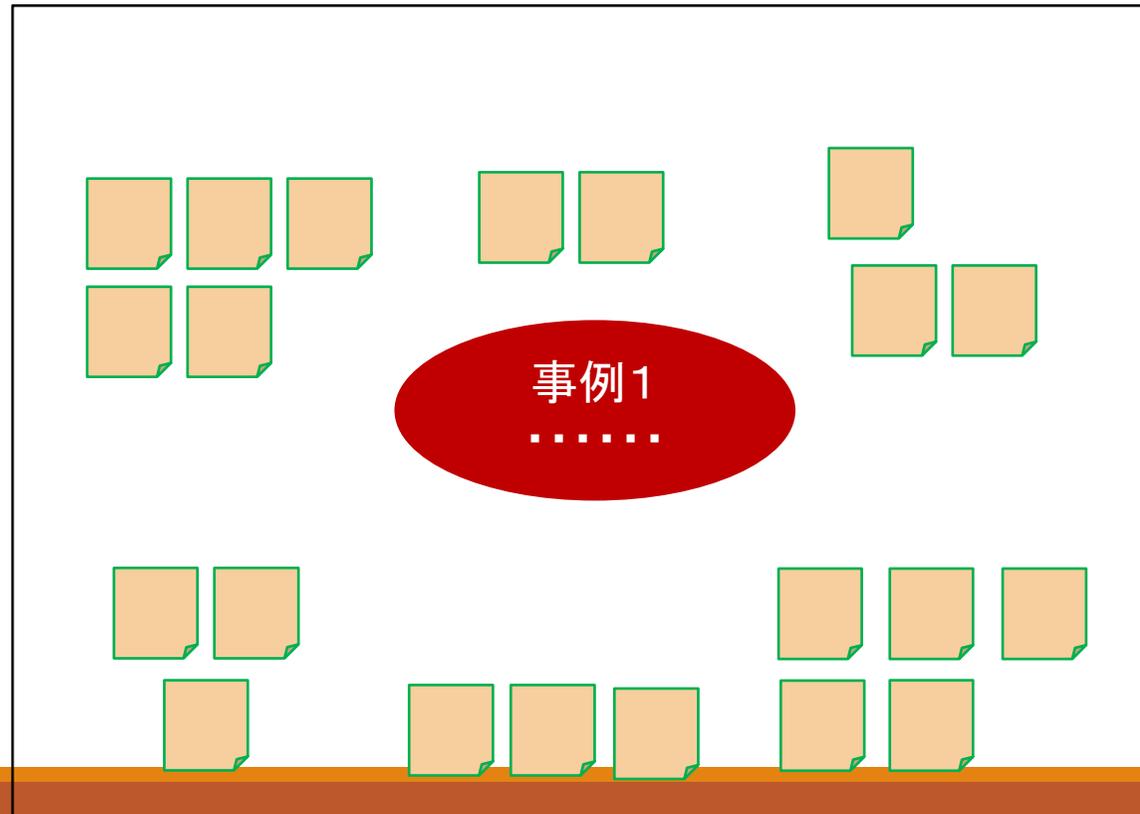
2. 専門性をはなれた〈個人の視点〉を大事に

- 事例はいろいろな角度から支援が出しやすいように作られています。最終的な問題解決を目指してしまうと、不足している情報が沢山あって行き詰ってしまいます。今日は「解決」を目指すよりも、より多くの「できること」をみんなで出し合うことを目標にしてください。
- 特に「個人としてできること」は、支援者でなくても、困っている人のために「できることがある」ということを知るための大切なふせんになります。どうぞ遠慮なく、積極的に出してください。

ちょっと不謹慎かも知れませんが、今日は自由な発想で、沢山の思い付きを出して、ポジティブに楽しくご参加ください。

ワーク2 付箋を発表、整理します

- ①ふせんを読み上げながら、あなたの「できる支援」を1枚毎発表し、模造紙に貼り出します。
- ②似た内容のふせんがある人は、読み上げて近くに貼り出します。
- ③書いた付箋が全部貼り出されるまで続けます。







どうやって集まってもらっているか

なぜ、委員を委嘱しないのか??

⇒委嘱された委員さんしか参加できなくなってしまうので..

⇒もっといろんな人からのアイデアを聞きたい

参加自由で人が集まるのか??

⇒民生委員、ボラ、老人クラブなどにはこまめに声がけしております。

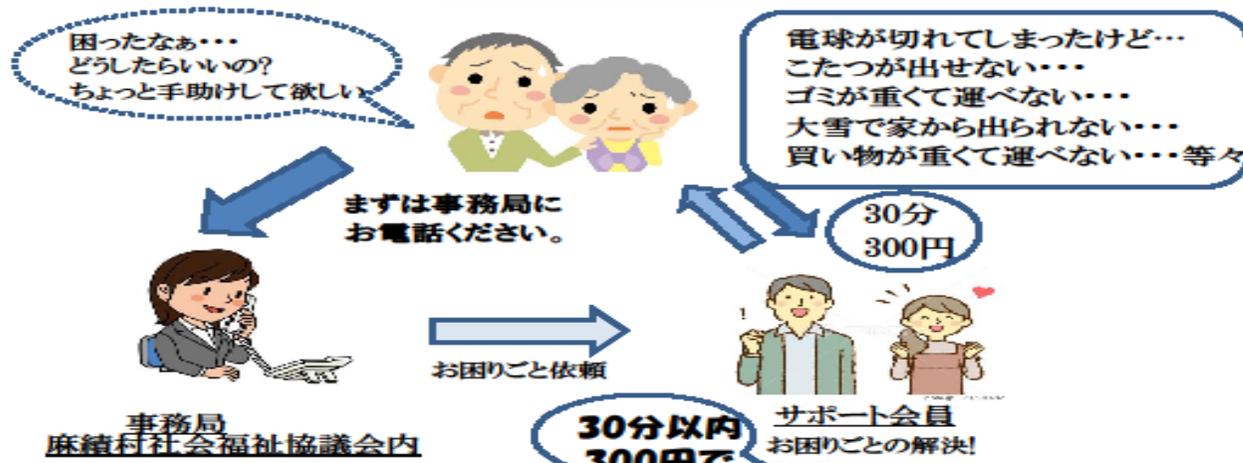
⇒介護サービス、ケアマネ、障がいサービスの人たちには、参加要請(強制ではない)します。お医者さんにも声はかけます。

効果

- ・参加者自らが主体となって、「**できること**」を考える機会を重ねることにより、地域においても「**何ができるのか！？**」という思考で物事も見てくださる様になっている。
- ・ワークにおいて、**～をやりたい**(例 子ども食堂、男性サロン、見守り隊等)を表明する人が出てきている。
- ・フォーマルな支援者(ケアマネ、介護サービスの人)、インフォーマルな支援者(ボランティア等)、行政など**横のつながりの機会**となっている。



ちょっと困った時の **おみごと!有償サポート**



ちょっとした生活のお困りごとをお手伝いします。

困った時は ☎ **67-3099** にお問い合わせ下さい。

受付: 月～金 9時～17時 おみごと!サポート事務局(麻績社協内)

～ 支援できる内容 ～

家具などの簡単な補修 通常のごみ出し
電球・蛍光灯の交換 延長コード取り付け
生活必需品の買い物 書類の代筆・朗読
生活出入り口の支障木・草の除去
薬の受取り(玉井医院・土屋薬局)
こたつ・ストーブの設置 灯油の補充 など
雪掻き(玄関から道路までの歩ける範囲のみ)

自動車を使っでの送迎サービスは対象外です。



長野県麻績村に「わくわくの村」

6/29(水) 9:18 配信  

 市民タイムス



朴葉餅を手作りする親子

長野県東筑摩郡麻績村内の有志が、村の豊かな自然や土地の資源を生かした活動を楽しむ任意団体「わくわくの村」をつくり、多彩な企画を展開している。月に数回、さまざまな人が集い、散策や自然の中で集めたものでの昼食作りなどを楽しむ。自然や地域の人々の豊かさを感じ、「楽しくわくわく生活する」提案をしていく。

移住者や子育て世代が中心になって3月末につくり、5月に活動を本格化した。誰もが自由に集いフラットな関係性でつながることで、居場所づくりや安心して暮らせる村づくりに結びつける狙いもある。

現在は村第2公民館を拠点に、平日に2回、土・日曜日に1回の行事を計画。今月下旬には村内外の親子が、朴葉（ほおぼ）ずしやかしわ餅、村で採った桑の実のジャム作りを満喫し、できたてをみんなで味わった。長女の礼葉ちゃん（1）と参加した宮崎ゆりさん（36）＝筑北村坂北＝は「桑の実採りを初めて体験した。普段なかなか経験できないことができて、すごく楽しい」と喜んだ。

5月末には、聖高原でごみ拾いとスタンプラリーを兼ねた企画を開いた。共通した価値である時間を使うが、お金は使わず豊かに暮らす「時間銀行」の考えに沿った活動で、長女の桜ちゃん（4）と初めて聖高原を訪れた西牧琴美さん（44）＝安曇野市＝は「緑や豊かな景色を感じられて気持ちいい」と話した。

代表の和栗由利子さん（46）は「村の豊かさを再確認し、いろいろな人がつながり、楽しく過ごせる場にしていきたい」と願う。活動予定はわくわくの村のInstagram「wakuwaku_omi」で案内している。7月は、わら納豆作りや映画上映会を計画している。



わかってきたこと

- ・『事例』を用いると、アイデアが出やすい。
- ・楽しい、やりがいを感じないと皆さんやらない
(汗)
- ・地域のために『何かをしたい』と思っている人は多い
- ・お年寄り個人の『楽しい』の支援は、ご近所、趣味仲間などにこそ一番支援力がある。



生活支援協議体 についての考察

介護保険制度が始まって 地域に起きた2つの問題

1、狭間のニーズ問題

2、地域社会（地縁組織）との分断

狭間のニーズ問題(例)

・2000年に介護保険制度が始まったときは、介護保険サービスで、全てのお年寄りの在宅生活が支えられるはずだったが、実際にはそうならなかった。

・**ちょっとしたこと**(例ごみ出し、草取り、回覧板まわし等々)が、生活の足枷となっていることもわかってきた。

⇒これら単独では、介護保険サービスでできないと言われているもの

地域社会（地縁組織）との分断 （例）

- ・デイサービスに行くようになったら、地域の友人（近所や趣味の友人）と会う機会がめっきり減った。
 - ・友人の家に専門家（ヘルパーやケアマネ）が入るようになったので、会いに行くのを遠慮するようになった。
- ⇒介護保険サービスを利用する事で、友人関係が疎遠となってしまった。

(参考)介護保険以前からの 地域課題

- 地域の過疎化
- 全体的な高齢化(限界集落)

⇒ 今まで支援する側だった人もされる側になってきた。

そこでの在宅生活を続けるには、地域を越えた支援体制等を検討する必要性が出てきた。

狭間のニーズ問題
地域社会(地縁組織)との分断
以前から続く、過疎高齢化



生活支援協議体は、これら状況から生まれた高齢者の困りごとについて解消に向け『何ができるのか』を考える色んな立場の集まり

麻績村ではまず

これら理由から来る高齢者の困りごとを『事例』とし、
『事例』に対し、『自分なら何ができるのか』アイデアを出してもらい
アイデアを参加者全体で共有し

『今すぐできること』『やってもいいと思えること』は、地域に帰って早速取
り組んでもらっています。※強要してません。

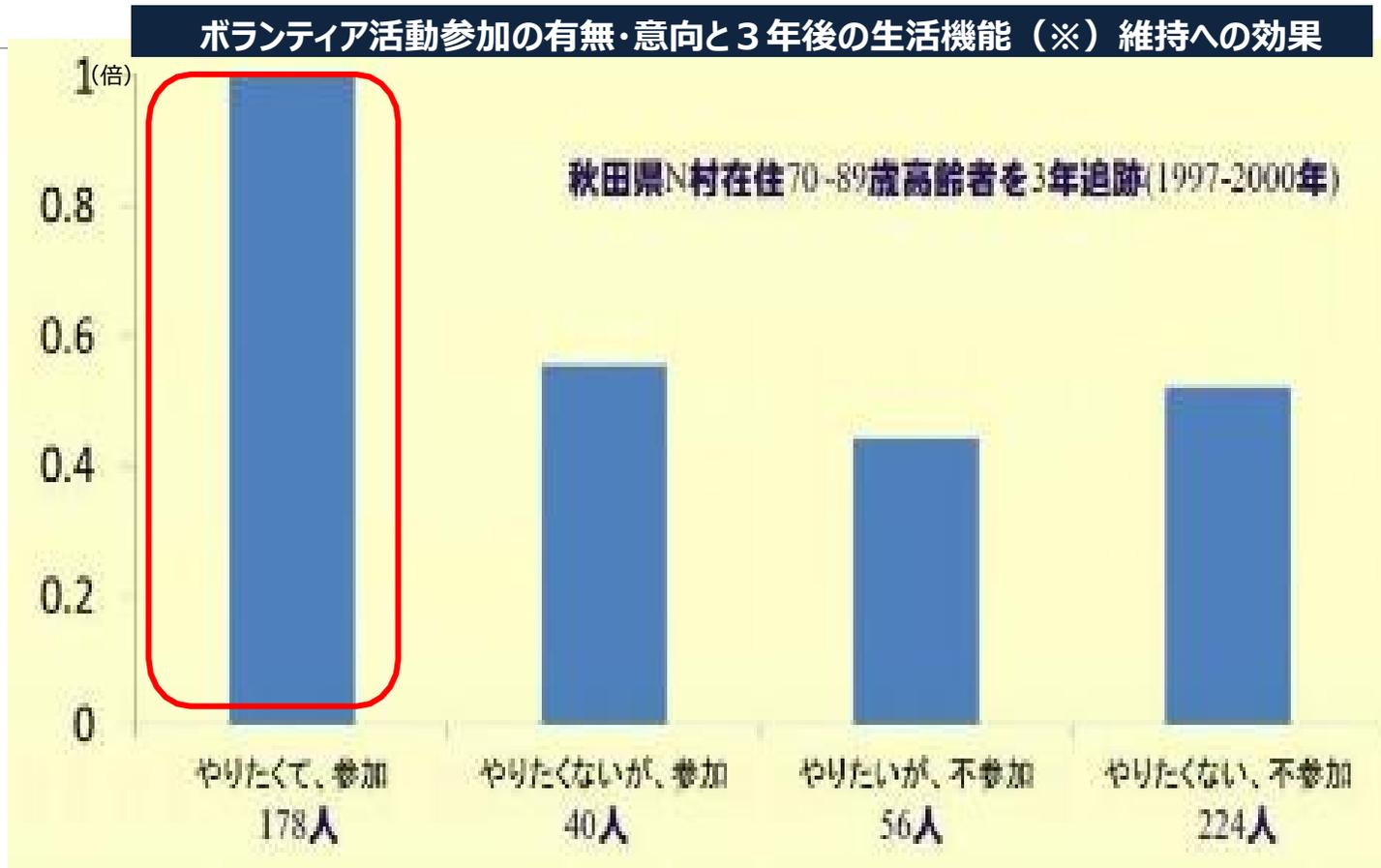
その上で得られた経験やアイデアも、次の事例に生かしてもらっている。

『自分にできることは何か』地域の中で一人でも多くの人が、そう思うよう
になってくれば、自発的な新しい取組みも生まれてくるのではと考えてい
ます。

「協議体」に関わる人にも現れる
といわれている嬉しい効果

参考

自発的な社会参加は、健康維持効果が高い



注) 性、年齢、教育歴、慢性疾患(高血圧、糖尿病、脳卒中、心臓病)、過去1年の入院歴、痛み、老研式活動能力指標、健康度自己評価、BMI、血清アルブミンを調整

(※) 基本的日常生活動作能力 (BADL)

(出典) 第4回中央教育審議会生涯学習分科会企画部会(平成28年11月)資料3「高齢者の社会参加による“Win-Win”型健康づくり」東京都健康長寿医療センター研究所社会参加と地域保健研究チーム 藤原佳典

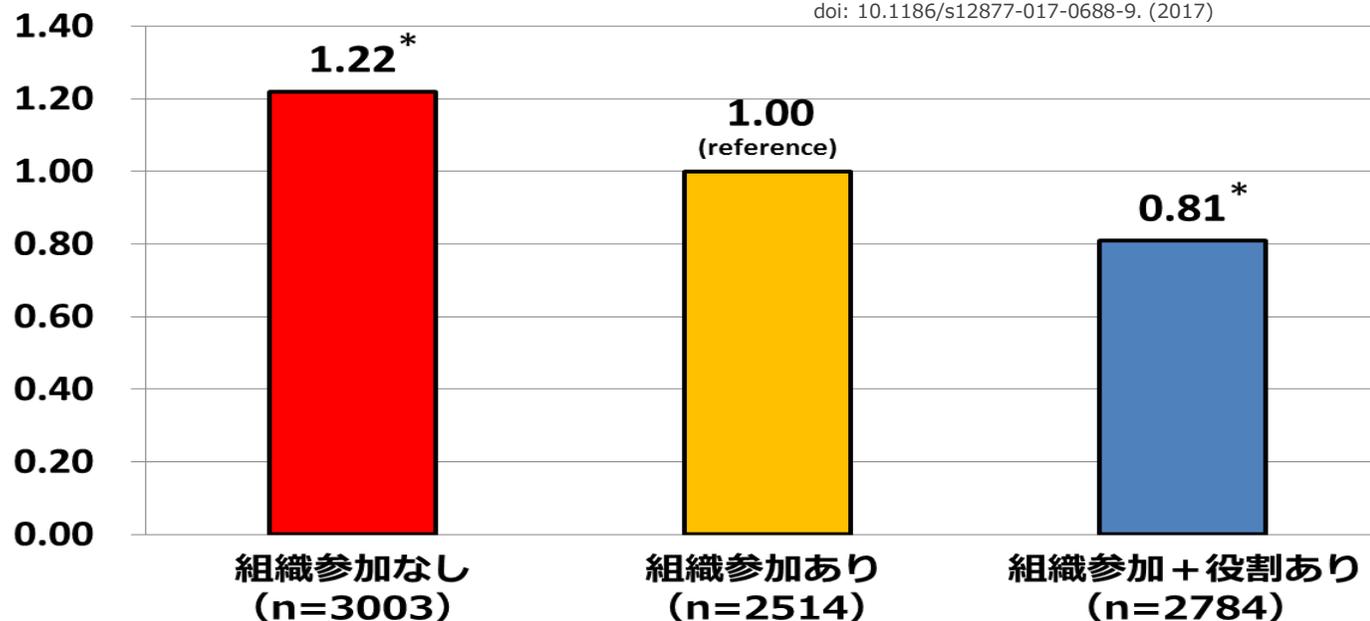
(Fujiwara Y, Shinkai S, Kobayashi E et.al.第25回日本疫学会総会,名古屋,2015.1.21-23)

組織参加＋役割ありで、認知症2割減

前期高齢者では、地域活動の非会員は一般会員よりも認知症発症リスクが22%高く、役割者では19%低い。

*統計学的に意味のある違いが認められたもの
Nemoto Y, et. al., BMC Geriatr. 17(1):297.
 doi: 10.1186/s12877-017-0688-9. (2017)

認知症を伴う要介護認定発生のハザード比



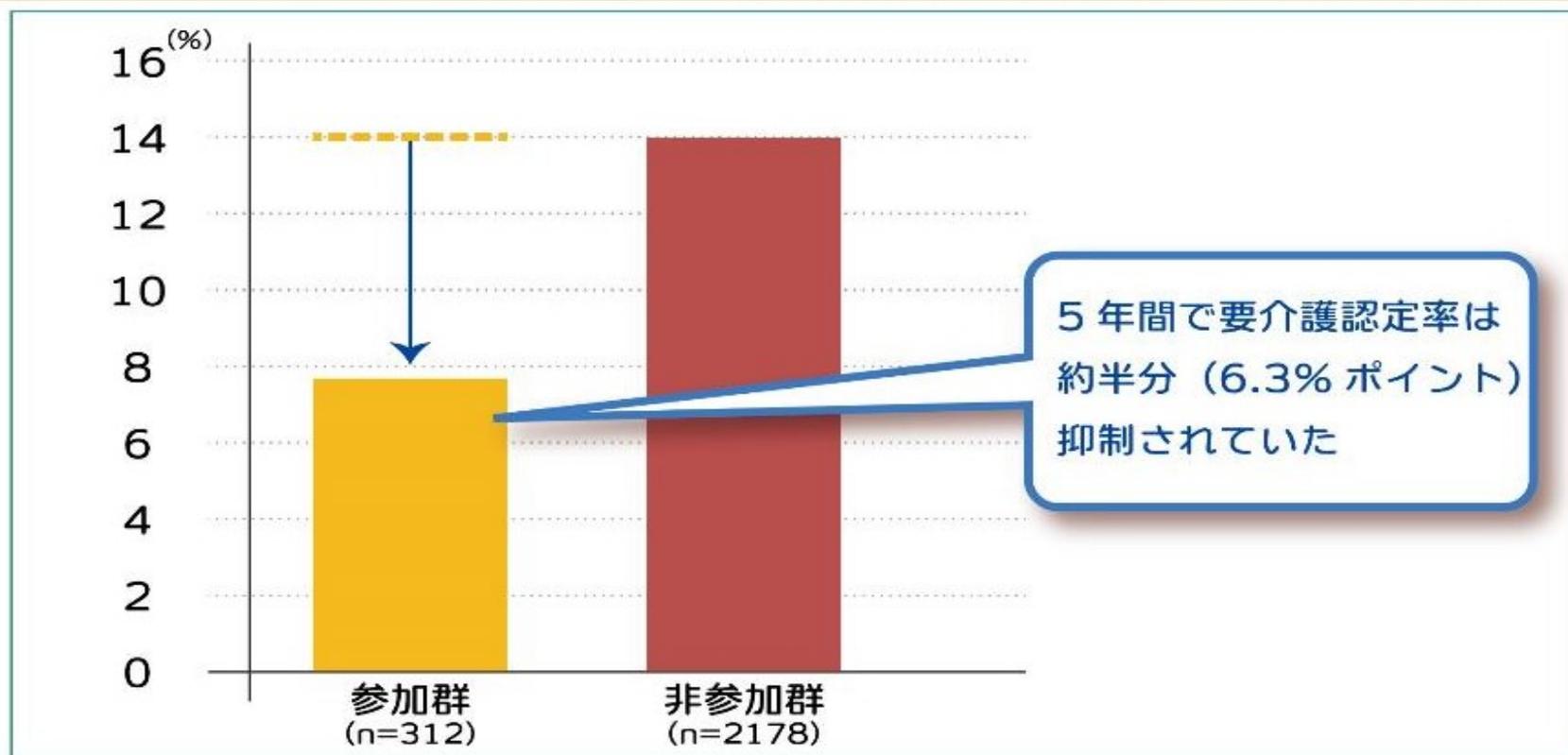
前期高齢者 (n=9234)

※性、年齢、教育年数、婚姻状況、居住形態、就業状況、歩行時間、既往歴（心疾患、脳卒中、高血圧、糖尿病）、飲酒、喫煙、抑うつ、IADLを考慮した解析

※※各対象者数は欠測値の補完前の対象者数を示す。

参考 サロン参加群で要介護認定率が低い ～5年間を追跡した結果～

2007年から2012年までの5年間の要介護認定率を参加群と非参加群で比較した

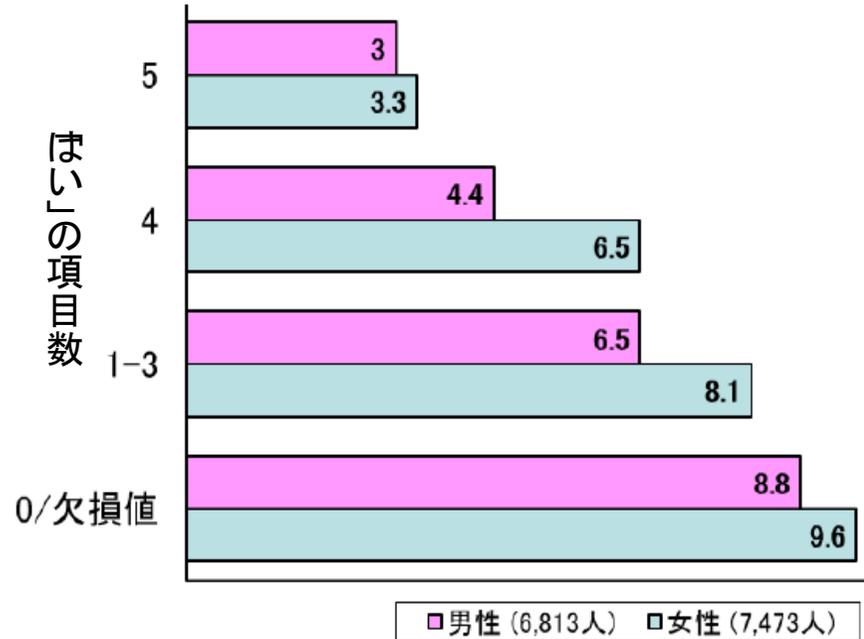


5年間のコホートデータを使用。約2400人を解析した結果。

Hikichi H., Kondo N., Kondo K., et al. (2015) Journal of Epidemiology and Community Health (doi: 10.1136/jech-2014-205345)

ポジティブ感情で認知症リスク半減

1. 今の生活に満足していますか
2. 普段は気分がよいですか
3. 自分は幸せなほうだと思いますか
4. こうして生きていることは素晴らしいと思いますか
5. 自分は活力が満ちていると思いますか



4年間で認知症になった人の割合(%)

Chiyo Murata, Tokunori Takeda, Kayo Suzuki, Katsunori Kondo. Positive affect and incident dementia among the old. Journal of Epidemiological Research, 2 (1): 118-124.2016

本日お越しの皆さんへ